

平成30年度事業報告書(案)〈特定非営利活動に係る事業〉

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

特定非営利活動法人ずし楽習塾推進の会

1. 平成30年度事業の特色及び内容

- ・昨年度に続き(株)パブリックサービス(以後PSと略す)が指定管理業者として逗子市より交流センター全般の運営を委託され、市の生涯学習事業の中の「ずし楽習塾講座」は今年度もPSからの再委託となりました。PSとの定期交換会は引き続き継続し講座全般についての問題を調整し解決してきました。
- ・昨年度よりⅠ型、Ⅲ型に加えⅣ型でも受講生から受講料(or 資料代)を徴収し、当会の運営に寄与する事になりました。
- ・会計システムについては昨年度から当会の会計規程を見直し、見やすい・簡明なシステム(横書き)に取り組んで来、順調に慣れ親しんで来た気がします。
- ・従来を受講生募集は市の広報誌「広報ずし」に頼るところが大だったのですが、昨年度から市の広報部門の方針変更も有ってか?当会の募集記事に割かれるスペースが年々減少して来ました。そこでホームページ・ロビー展示・知人へのメール案内等に力を注ぎそれなりに成果を上げたと思います。
- ・従来のがパソコンが古くなり、OS(W7)のサポートも終了するとの事で思い切って新しいパソコン(W10)を導入しました。

(1) PSから(逗子市関連)の生涯学習に係る受託事業

(a)講座開設総数

Ⅰ型(市民講師講座)：22座、Ⅱ型(市民グループ等企画講座)：2講座、  
Ⅲ型(プロジェクト企画講座)：3講座、Ⅳ型(協働企画講座)：2講座  
の合計29講座でした。

従前からの累積講座総数は402講座となりました。

(平成29年までの累積総数は373講座でした。)

(b)講座受講者総数は、平成30年度を受講者総数は1,657人でした。

平成29年度は1,737人で若干減りましたが1,600人強が定数かと思います。

(c)各講座毎に見ると

- ①Ⅰ型講座では講師の公募を「広報ずし」に頼るだけでなく、メール等でも案内し全体の計画を1ヶ月早める事に成功しました。企画書の提出は44人でしたが、受講生募集の結果必要最少人数(6人)が確保できない講座もあり、開講が決定した講座は24講座でした。そのうち2講座(時計の歴史、色彩活用テクニック)は講師が急病のため中止せざるを得ず結局22講座の開講となりました。

7月1日からスタートし12月19日には全ての講座が終了しました。

新しい講座としては『自彊術』『初心者向け登山教室』『知って得する終活セミナー』等がありました。『仏像へのいざない』講座は好評で今年度も受講者42人となり

2 教室を手配しました。

②II型は“福祉・子育て支援等の活動グループと市民”に対象を絞って今年度も応募者を募った結果次の2グループから応募があり、理事会で審議し決定しました。

1. 『グループつながり』の[子どもの育ち応援団](延67人)、  
講座[子どもの育ち応援団]は子育て世代を受講ターゲットとしているため、託児のニーズが高く『グループつながり』が対応しました。
2. 『お互いさまアーデンヒル』の[人とつながって健康寿命を伸ばそう](延37人)  
講座[人とつながって健康寿命を伸ばそう]では、(食事・運動・社会とのつながり)の3つの柱の内、社会とのつながりが強調されました。「孤立しない、孤立させない」ことの重要性について理解が深まったと思います。

③III-1型(企画型テーマ講座)

『少子高齢化社会にどう向き合うか?』

—社会は?私たちは?—

第1回「人口成熟時代の経済学」—現実を知り勇気を持って進もう—

第2回「脳を守ろう」—脳梗塞・認知症を予防するために—

第3回「未来社会のために今、社会は何をなすべきか」—社会保障改革の道筋

第4回「少子高齢化社会で今後何が起こるか」—人口学からみた将来展望—

世界に先駆けて日本が現在、直面しつつある大問題、少子高齢・・・その想定される社会、経済、社会保障、健康等諸問題について各々詳しい先生方が一般市民向けにやさしく解説、説明して頂きました。特に高齢化率の高い当地区ではシニアは勿論、一般市民にとっても関心、興味深いテーマと考えて、企画し上記の通り好評価を得ました。

なかなか難しい4講座でしたが各回とも40数人集まり、延162人の参加でした。

④III-2型(女性力アップ講座)・

『村が変わった、人が変わった』—ネパールの村で共に生きる日々—

ネパールの奥地で25年余、学校建設(200校余)、生活支援、女性活動支援等で活躍し、何でも“OK”して支援してくれるので、「OKバジ(おじいさん)」と呼ばれている垣見氏をお呼びし、その支援活動を通じて現地の女性力がアップしている状況に感銘を受け、好評でした。(参加者77名)

⑤III-3型(アート講座)

『ずしの小さなシネマカフェ物語』—あしたの映画のかたち—

逗子の小さなシネマカフェのオーナー長島氏をお呼びして、その設立の意図、またご苦労、そして地域に根差す映画活動、文化活動等、画像を交えたお話し

に興味をそそられた様子で、アートの講座に映画を加えた新機軸は成功した  
と思います。64名と受講者も多く好評でした。

⑥Ⅳ型（協働企画講座）－『食材探訪』－をテーマに2回開催

1. 『食品工場見学』・・・初めての企画で、マイクロバスを仕立て、抽選による  
24名が参加、大好評でした。
  - ・キリンビール横浜工場：ビールの製造方法やこだわりを知り、  
香・感触・味を体験しました。
  - ・鎌倉ハム富岡商会：製造の工程を見学し、ハムが伝えられた歴史等を  
学びました。
2. 「味の素さんの味な話！」：うま味調味料「味の素」の誕生・歴史・開発秘話  
等のお話をお聞きし、うま味を試飲、効果的な活用で減塩することが出来るこ  
とを学びました。

(2) 自主事業

(a) 『談話サロン』

本年度(H30年4月～H31年3月)も毎月開催され、年間延参加者は314名で  
毎月平均20数名の参加者でした。

本年10月には特別卓話として逗子在住の元東大名誉教授、石井吉徳氏をお招きし  
時勢を得た「地球は有限、資源は質がすべて」のお話を伺いました。

若干難しいタイトルのせいか参加者数は今一步でしたが、有益な内容であったと  
思います。

(b)生涯学習に関する調査・研究・情報提供事業

・会報の編集・発行・配布

年2回の発行を予定している会報「ずし楽習塾だより」では、まず会員募集を重点  
にした秋季号(No25号)をH30年9月に発行し、各講座紹介を中心とした春季号  
(No26号)をH31年4月に発行しました。

・調査・研究活動としては、「会計学入門」講座を交流センターにて受講しました。

- (3) 本年度の講座でも交流センター以外としては「沼間コミュニティセンター」を使用し  
ましたが、PSの職員を始め関係各位のご協力により、問題無く初期の目的を達成す  
る事が出来ました。

\* 以上の通り全般の事業活動を遅滞なく無事終了でき、成果を挙げ得たのは当会会員の献  
身的なボランティア活動と共に、関係各位のご理解とご協力の賜物と感謝申し上げます。

平成30年度ずし楽習塾講座(主要総括表)

講座名	市民講師 企画講座 (Ⅰ型)	市民グループ 等企画講座 (Ⅱ型)	プロジェクト チーム企画講座 (Ⅲ型)	協働企画講座 (Ⅳ型)	談話サロン	合計
開設講座数	22講座	2講座	3講座	2講座		29講座
開設講座回数	100回	4回	6回	2回		112回
実施時期	自30/7 ～ 至30/12	自30/9 ～ 至31/2	自30/5 ～ 至31/2	自29/9 ～ 至30/3	自30/9 ～ 至31/3	毎月
	市民交流 センター  沼間コミセン	市民交流 センター	市民交流 センター	市民交流 センター	桜逗会館	
受講者数	206名	76名	329名	88名	314名	964名
受講者延数	822名	104名	329名	88名	314名	1657名

◎ Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型講座の受講者数に、当会会員・市民委員を参入しておりません。